

# スイス・チューリッヒ教育大学における教師教育の現状

生田周二

(教育実践総合センター)

柴本枝美

(先端的な教職科目体系のモデル開発プロジェクト)

## An Outline of Teacher Education at University of Education Zurich (Pädagogische Hochschule Zürich) in Switzerland

Shuji IKUTA

(Center for Educational Research and Development, Nara University of Education)

Emi SHIBAMOTO

(Teachers Competencies Project, Nara University of Education)

**要旨**：2010年10月4日から8日にかけて訪問したチューリッヒ教育大学における教師教育について、その大学概要、教育課程、能力資質基準「NOVA09」、教育実習、実習に伴う適性検査を中心に整理した。理論と実践の往還の仕組み、協力校との連携、実習を観察し評価する視点などが参考になる。

**キーワード**：教師教育 Teacher Education、コンピテンシー Competency、アセスメント Assessment、スタンダード Standard

### はじめに

2010年10月4日から8日にかけて訪問調査したチューリッヒ教育大学における教師教育について、その教育課程、能力資質基準「NOVA09」、教育実習、実習に伴う適性検査を中心に整理した。

#### 1. チューリッヒ教育大学の概要

スイスは、人口約760万人、面積4万1千km<sup>2</sup>の小国であるが、公用語は4言語（ドイツ語（スイスドイツ語）、フランス語、イタリア語、ロマンシュ語）あり、多様性の高い国である。そのため、26のカントン（州）毎に教育制度が異なる。その中で、チューリッヒはドイツ語圏に属する。

スイスの学校制度と教員免許単位制度は、幼稚園2～3年、小学校6年、中等教育Ⅰ3年（一人の教員が4教科を担当）、中等教育Ⅱ4～5年となっている。なお、クラス定員は28人である。

高等教育機関は、総合大学10、連邦工科大学2、高等専門学校7、教員養成大学15、その他職業系大学などである。教員養成大学のひとつであるチューリッヒ

教育大学（Pädagogische Hochschule Zürich: 略称PH Zürich）の特徴は以下の通りである。

#### (1) 規模

2002年10月3日チューリッヒ州の11の教員養成機関が合併して設立されたチューリッヒ教育大学は、学生数1800人（毎年約350人の学生が卒業する）で、幼稚園、小学校、中等教育Ⅰの教員養成を担う。

教員数は、教授64人（男45人、女19人）、教授以外の大学教員450人（定数300）、職員250人（定数190）である。

#### (2) 入学及び卒業

入学は、ギムナジウム卒業などの資格を満たした入学、それ以外の者への筆記試験及び面接等の適性試験による入学に大きく二分される。入学定員はなく、入学資格・試験を満たせば、全員が入学することができる。2010年度については、522人の入学生があった。その内訳は、以下の通りである：幼稚園54、幼稚園・小低学年62、小学校260、小学校NOVA Flex（E-Learningを含むコース）19、小学校への変更7、中等学校Ⅰ122、中等学校への変更5。

新入生が多い年度の場合、実習協力校と受け入れ人数についての交渉が必要となる。

卒業後、スイスの教員採用が学校毎の教員採用となっているため、各学校で採用が決定されると、州に申請し、州から給料が支払われる。この点は、日本の教員採用試験とは大きく異なっている。

(3) 学費および大学運営費

学費は、年1,600スイスフラン（1スイスフラン約85円として136,000円）である。なお、学費はカントンによって異なっている。

なお、チューリッヒ教育大学の運営費のうち、80%が運営交付金である。運営交付金から実習協力校に謝金等の支払いが行われる。

2. チューリッヒ教育大学における教員養成課程について

次の4つの教員養成課程がある。とりわけ、小学校課程の2010年度入学生履修科目一覧については、表2を参照願いたい。

(1) 幼稚園課程

- ・入学資格：専門中等学校 (Fachmittelschule/Fachmaturitätsschule) あるいはディプロム中等学校 (Diplommittelschule) 卒業
- ・期間：3年課程 180単位 (ECTS：欧州単位互換制度……1単位=30時間)
- ・卒業資格・免許：幼稚園課程の教員免許、初等前教育の学士号

(2) 幼小課程 (幼稚園2年間と小学校3学年まで)

- ・入学資格：ギムナジウム終了もしくは入学試験
- ・期間：3年課程 180ECTS
- ・卒業資格・免許：幼稚園と低学年課程の教員免許、初等前及び初等教育の学士号
- ・必修科目：ドイツ語、数学、人間と環境、運動とスポーツ、音楽、造形、工作、演劇とリトミック (外国語の学習の必要はない)

(3) 小学校課程

- ・入学資格：ギムナジウム終了もしくは入学試験
- ・期間：3年課程 180ECTS
- ・卒業資格・免許：小学校課程の教員免許、初等教育の学士号
- ・必修科目：ドイツ語 数学 人間と環境 外国語 (フランス語または英語)
- ・選択科目 (3科目選択)：運動とスポーツ 音楽 造形 工作 織物 第2外国語 (フランス語または英語)

- ・追加可能科目：宗教と文化

(4) 中学校課程

- ・入学資格：ギムナジウム終了もしくは入学試験
- ・期間：4年半課程 270ECTS
- ・卒業資格・免許：中等教育1課程の教員免許、中等教育の修士号
- ・履修科目：以下の表により4教科を選択

	Profil1	Profil2	Profil3
選択A (2科目) :40ETC	・自然と技術 ・ドイツ語か 数学	・英語、フランス語かイタリア語 ・ドイツ語か 数学	・英語、フランス語かイタリア語 ・フランス語、イタリア語か 英語
選択B (1～2科目) :30ETC	地理、歴史、家政 (家庭科)、宗教と文化		
選択C (1科目) :30ETC (選択Bで1科目選択の場合)	運動とスポーツ、造形、音楽、工作、織物		

3. 能力資質基準 NOVA09

「NOVA09」のパフレットの前文に教育担当副学長ハンス・ユルク・ケラー教授の次の言葉がある。

「将来の教育者として、あなたたちは獲得した知識を実践において素早くそして目標に向けて活用できるようにしなければなりません。あなたたちがうまく職業に入っていけるのを準備するために、教育課程モデルNOVA09が身につけるべきコンピテンシーの獲得を方向付けます。NOVAにおいてあなたたちは、促進されたり、それに沿って評価を受けることになります。

獲得されたコンピテンシーは、すべての学習課程にとって同等であり、コンピテンシー構造モデルの中で12のいわゆるスタンダードをもって表されています。これらのスタンダードは、3つのレベルで示されています:知識 (Wissen)、活用意志 (Umsetzungsbereitschaft)、行動能力 (Können)。」

能力構造モデル「NOVA09」は、知識を活用及び行動に転換できるように、実践と関連づけながら、12のスタンダードから成っている。その特徴は、次の3点である。

- ・合科的に関連づけながら学習する—学習領域は中心的な上位の能力を伝達する。
- ・学問的活動に関わることで成果を生む—研究・開発プロジェクトへの参加。
- ・学習を自分で管理することができる—学習の半分は

学習グループや自己学習で行われる。

「NOVA09」の12のスタンダードは、以下の通りである。

- ① **専門知識と行動能力 Fachspezifisches Wissen und Können**  
 教員は専門知識を習得し、教科の中心的概念、研究手段と構造を理解する。教員は、現実の一般のおよび専門的教授の重点を知っており、そこから授業にとっての結論を引き出すことができる。
- ② **学習、思考、成長 Lernen, Denken und Entwicklung**  
 教員は、生徒がどのように学習し、思考し、成長するかを理解する。教員は、生徒の学習と思考を促進し、それによって認知的、社会的、人格的発達を励起し、支えることができる。
- ③ **動機付けと興味 Motivation und Interesse**  
 教員は、動機と興味についての知識を習得する。教員は、生徒の学習と行動を促進および彼らの存在と関心形成を支援するためにこれらを用いる。
- ④ **多様性 Heterogenität**  
 教員は、生徒の多様性—社会的出自、文化、成長の条件、言語、ジェンダー、年齢、学習条件、に関する違い—を認める。教員は、授業と学校生活において多元性を考慮し、機会の平等につとめる。
- ⑤ **協力、関与と社会的環境 Kooperation, Partizipation und soziales Umfeld**  
 教員は、クラス、保護者、同僚、関係機関、さらには学校関係者と協同し、学校に関係する課題の処理に関わる。教員は、支援的な社会的環境を作り出すことにつとめることで、信頼、相互尊重と評価によって形成される活動・学習・生活文化が生まれることになる。
- ⑥ **コミュニケーション Kommunikation**  
 教員は、コミュニケーションとコミュニケーション的態度の基礎を知っている。教員は、言語とコミュニケーション的態度についての知識を用いることで、学習と相互交流を促進する。
- ⑦ **教授計画 Planung und Durchführung von Unterricht**  
 教員は、専門的職業的科学的知識から教授計画とその指導理念、教材と学校プログラム、およびそれに基づく計画を基礎にして授業する。
- ⑧ **診断と評価 Diagnose und Beurteilung**  
 教員は、さまざまな手続きを使うことで学習成果および成績を観察し、診断し、そしてそこから生徒の助成のための認識を引き出すことができる。教員は、さまざまな評価形式を用いて、その機能と作用を知っている。
- ⑨ **職能成長 Sicherstellung der Qualität und professionelle Weiterentwicklung**

教員は、生徒および他の学校関係者への対する専門的・職業的行為の作用を評価する。教員は、自らの職業的人格的な継続、発展に目標をもって取り組む。

- ⑩ **学校と社会 Schule und Gesellschaft**  
 教員は、学校という全体システムがさまざまな現実とその要求のダイナミズムの中にあることを理解している。教員は、こうした文脈においてよく考え、役割意識を持って、そして、倫理的・法的規範および民主的原則に配慮しつつ行動する。
- ⑪ **組織としての学校 Schule als Organisation**  
 教員は、学校をシステムティックに理解することができる。教員は、同僚およびさらなる関係者とともに、協同の責任を持って学習の場として学校を形成する。
- ⑫ **ワーク・ライフバランス Beruf in der Lebensbalance**  
 教員は、職業上の課題に対応する戦略を運用できる。そして、自らの身体的・心理的資源を考慮する。(自己管理能力)

#### 4. 実習について

第1 Semesterから協力校における実践とのつながりがあり、教育課程時間の4分の1が教育実習関連となっている。なお、この点は、国の規定(“Reglement über die Anerkennung von Hochschuldiplomen für Lehrkräfte der Vorschulstufe und der Primarstufe vom 10. Juni 1999”)でも枠づけられているとともに、大学独自に36~54単位が職業実践教育(BpA: Berufspraktische Ausbildung)となっている(2005年10月28日規定修正)。

##### (1) 実習形態

実習は、大きく二つに分かれる。第1及び第2 Semesterに「教授学的行動と思考 I・II」の授業で、火曜日に14日間、協力校に通い観察と実習を行う一日実習がある(なお大学での理論学習が14回設定されている)。そして、ブロック的に長期間協力校に通うブロック実習とがある。

ブロック実習は、1 Semesterと2 Semesterの間(中間学期)に、3週間実習がある。第4 Semesterに4週間実習し、授業以外の課題にも注意を向ける。小学校課程の場合、第6 Semesterに、専門的な授業力を証明する最終判定の実習がある。

##### 幼稚園・幼小・小学校課程における教育実習

1年		2年		3年	
1 SM	2 SM	3 SM	4 SM	5 SM	6 SM
14日 + 3週間			7週間	7日	4週間

中学校課程における教育実習

1年		2年		3年		4年	
1 SM	2 SM	3 SM	4 SM	5 SM	6 SM	7 SM	8 SM
14日 + 3週間			7週間		7日	4週間	

(2) 協力校 (Kooperationschule)

チューリッヒ州には、15の提携校があり、それぞれ28人の学生を実習生として受け入れている。各学校の実習担当教員は、実習生を2人ずつ担当する。それぞれの校種の第1学年と学級経営に困難を抱えるクラスには実習生は入れない。実習生を入れるクラスと教員の選定は協力校グループ代表者となっている校長が行っている。実習生を担当する教員には、チューリッヒ教育大学から手当が支払われる。

(3) メンターと評価基準

チューリッヒ教育大学の「適性検査規定」(2005年4月15日付)に基づき、大学の教員がメンターとなり、一人が15人くらいずつ実習生を受け持つ。評価基準は、次の通りである。

①専門性・伝達

・専門的理解と質、・内容的関連理解、・言語(表現力)、・伝達方法とメディアの活用

②目標志向性・構造化

・目標の透明性、・目標志向的な授業展開、・授業の進め方の分節化、・構造化された理解の支援

③認知的活動・強める

・活性化した問題設定、・動機付け能力、・生徒の関与の導入、・インテリジェントな活用

④生徒志向性・学習支援

・生徒志向的な方法の利用、・さまざまな学習条件、・個々人の学習支援、・生徒の失敗との関わり方

⑤学級経営・授業環境

・ルールの明確性、・妨害があった場合の行動、・アクティブな学習時間、・授業環境

5. 適性検査 (Eignungsabklärung)

(1) 概要

大学の「適性検査規定」第1条に基づき、「教師になろうとする場合、職業前提条件が検査される」。それは、協力校における第1学年の教育実習の基礎履修中に実施される。

学生の自己評価と、大学教員のメンター、実習担当教員による他者評価に基づき、話し合いを経て、ポジティブな評価がなされる限りにおいては、メンターの責任において基礎履修の最後に「適性」という決定がなされる。

主な流れは、以下の通りである。

第1セメスター	第1段階	職業への動機の提示 Motivationsbericht
	第2段階	第1学期における職業実践教育 (BpA)
中間学期	第3段階	実習 I Praktikum 1
	第4段階	立ち位置の話し合い Standortgespräch
第2セメスター	第5段階	第2学期における職業実践教育 (BpA)
	第6段階	適性の話し合い Eignungsgespräch

退学率は20%で、中間試験10%、自己申告4%、適性検査5%、最終試験1%ということから、この適性検査で10~20人程度に対して前提条件がないという判定が下されることになる。

(2) メンター (大学教員) の見る視点 (適性検査で検査される職業前提条件)

日本の教育実習を見る視点として活用できると思われるのが、職業前提条件となっている5つの能力である。それはまたメンターが第1セメスターと第2セメスターの教育実習を見る視点ともなっている。

5つの能力は、以下の通りである。

①コンタクトとコミュニケーション能力

・コンタクトへの意欲、・共感する力、・相互作用能力  
関わり合う力、・指導と役割意識

②構造化された思考、行動、提示能力

・構造化能力、・目標に向けて方向づけていく、・ネットワーク化と相互作用、・提示能力

③柔軟性

・豊かな発想とファンタジー、・柔軟性とオープンさ、・自律性

④省察能力 (ふりかえり)

・職業分野の必要条件、・授業と学習プロセス、・ジェンダー、・自己認知と自己評価、・結果

⑤耐久力

・認知能力 (本当のことに受け止めようとする力、・葛藤力、・対立能力、・決定力

以上のそれぞれの能力について、下位項目が設定され、メンター、実習担当教員が4件法 (「全くない」「めったにない」「しばしばある」「常にある」) でチェックすることになる。

表1 適正検査チェック項目

1. コンタクトとコミュニケーション能力	
1.1	生き生きと関心を引き覚ますような働きかけをしている
1.2	他者に歩み寄れる
1.3	人の話をよく聞いて、物事に対してオープンである
1.4	他者に共感できて、見方を変えることができる
1.5	他者に考えや気持ちをわかってもらえるようにする
1.6	他者と関わりつつ距離をとることができる



1.7 他者と建設的に緊密に協同作業をする（一緒に取り組む）
1.8 建設的で事実即してふりかえりができる
1.9 状況にふさわしく指導する（場面に応じた指導ができる）
1.10 場面に応じて違う役割を担える
1.11 適切な空間（教室）にして、他者の自己責任に信頼を示し、我慢強くする

<b>2. 構造化された思考、行動、提示能力</b>
2.1 論理的に追思想的に構造化し、要点を設定する
2.2 明確で要求度が高く、達成可能で意味のある目標を設定して活用する
2.3 自らの意図を認識し、形成し、追求する
2.4 効率的に行動する
2.5 じっくり考え、責任感をもって行動する
2.6 言葉や文章で、はっきりして的確で詳細に自分を表現できる
2.7 言葉上でなく（態度において）、明確で一貫性のある表現ができる
<b>3. 柔軟性</b>
3.1 授業づくりにおいて創造的である
3.2 構造的な問題解決に貢献できる
3.3 いろいろな考えや刺激を受け止めてそれをさらに発展させる
3.4 態度や思考において多面的で柔軟に自らを示すことができる
3.5 自分の考え方とは違う考え方を認識することができる
3.6 意味ある変更（修正）を検討できる
3.7 適切な自己責任をとれる

<b>4. 省察能力</b>
4.1 学校における職場に関係するプロセスや変化に積極的に関わることができる
4.2 継続的に授業場面を検討する
4.3 学習展開において意図的あるいは無意図的な作用（影響）を知覚する（わかる）
4.4 関連性と相互作用性を認識し、検証する
4.5 性役割特有の影響を批判的に振り返ることができる
4.6 職業的活動における自らの性の作用を認識し、振り返る
4.7 出来事への自らの関与を認識し、人と職業役割（教師）と深く関わることができる
4.8 自己評価と要求において現実的である
4.9 省察を活用してそこから現実的な帰結を導く
4.10 フィードバックを厳粛に受け止めて、ふさわしいものに統合できる

<b>5. 耐久力 (Belastbarkeit)</b>
5.1 業務への意欲を示す
5.2 活動能力があって関与している
5.3 困難な条件のもとでも影響（ストレス）を整理することができる
5.4 平静さと見通しを維持できる
5.5 抑圧的な状況（ストレスのある状況）においても思慮深く責任を引き受ける
5.6 ストレスのもとでも、決定および行動能力を保持する
5.7 異なった状況や対立を適切に知覚する
5.8 不一致に耐えて、解決を見いだすことに努める
5.9 自らのリソース（キャパシティ）に持続的につきあう
5.10 適切なタイムマネジメントができる

6. まとめ

以上、チューリッヒ教育大学における教師教育について、その大学概要、教育課程、能力資質基準「NOVA09」、教育実習、実習に伴う適性検査を中心に整理した。理論と実践の往還の仕組み、協力校との連携、実習を観察し評価する視点などが参考になる。

〈主な収集資料等〉

- ・チューリッヒ教育大学の教員養成カリキュラムに関する資料
- ・マイレン協力校（Kooperationschule in Meilen）における実習資料
- ・Didaktisch handeln und denken 2（大学の講義で使用するテキスト）
- ・Unterricht kompetent planen（指導計画作成のためのワークブック）
- ・Schülerinnen und Schüler kompetent führen（実習で使用するワークブック）
- ・NOVA 09およびNOVA FLEXについての説明資料
- ・チューリッヒ教育大学の「適性検査規定」（2005年4月15日付）など入学試験及び適性試験についての資料

表2 2010年度入学生 履修科目一覧（初等教育段階）

学期	開講時期	科目名	ECTS
1	2010秋	学習	3
		発達	2
		教授学的行動と思考 I	6
		ドイツ語教授学 I	2.5
		課題学習分野：子どもと青年の生活世界への視点	4
		数学教授学 I	2.5
		人間と環境教授学 I	2.5

1	2010秋	表現コンピテンシー	1.5	
		基礎コンピテンシー (BS、BG、MA、MB、MK、MU、WE、WT) : 各1クレジットで三つの提供	3	
第1中間学期	2010冬	実習Ⅰ (3週間)	4.5	
2	2011春	コミュニケーションと多様性	3	
		教授学的行動と思考Ⅱ	6	
		課題学習分野: 学習戦略を獲得して学習プロセスに寄り添う	4	
		宗教、学校、社会、基礎	2.5	
		基礎コンピテンシー (BS、BG、MA、MB、MK、MU、WE、WT) : 各1クレジットで三つの提供	3	
	2	プロファイル科目	造形教授学Ⅰ	2.5
			運動とスポーツ教授学Ⅰ	2.5
			学校実践的歌唱指導Ⅰ	1
			音楽教授学Ⅰ	1.5
			工作教授学Ⅰ	2.5
第2中間学期	2011夏	コミュニケーショントレーニング	1	
		課題研究発達プロジェクト 第Ⅰ部	1.5	
		履修週間 数学	1	
		基礎言語 (ドイツ語、英語基礎) (英語が第1外国語の場合)	2	
		基礎言語 (ドイツ語、フランス語基礎) (フランス語が第1外国語の場合)	2	
		中間試験 陶冶と訓育 (教育)	1	
		中間試験 ドイツ語コンピテンシー	0.5	
3	2011秋	授業を科学的に考察するⅠ (授業分析)	1.5	
		特殊教育	1.5	
		ポートフォリオ	4.5	
		第2言語としてのドイツ語	1	
		課題研究と発達プロジェクト 第Ⅱ部	1.5	
		講義"水平的社会と教育"	1	
		課題学習領域: 観察、評価、促進	4	
		メディア教育Ⅰ	1	
		筆記	1.5	
	法Ⅰ	1.5		
	プロファイル科目	英語教授学Ⅰ	2.5	
		フランス語教授学Ⅰ	2.5	
		学校実践的歌唱指導Ⅱ	1	
第3中間学期	2012冬	冬のスポーツ	1.5	
		健康促進	1.5	
		課題研究と発展プロジェクト 第3部	1.5	
		メディア教育Ⅱ	1	
4	2012春	コンフリクトマネジメントトレーニング (対立処理訓練) 対処法	1	
		4分の1実習 (ターニングポイントを含む) (7週間)	12	
		ドイツ語コーチング	2	
		数学コーチング	2	
		メディア教育Ⅲ	1	
第4中間学期	2012夏	履修週間国内の移民	1.5	
		提供履修週間: クラスキャンプ	1.5	
外国語滞在	2012夏	外国の移民 (深化のエレメント)	4	
		補助教員 アシスタントティーチャー (3週間)	4.5	
		ステージ (3週間)	4.5	
		学士論文	4.5	

スイス・チューリヒ教育大学における教師教育の現状

5	2012秋	授業分析 II	1.5
		課題ゼミナール”水平的な社会と教育（5学期か6学期に影響される）	2
		宗教と文化教授学	2
		深化プロジェクト 外国の移民	2
		深化課題 I	6
		追加モジュール（2つにつき1クレジット）	2
5	プロフィール 科目	造形教授学IIと専門教授学プロジェクト	3
		運動とスポーツ教授学IIと専門教授学プロジェクト	3
		音楽教授学IIと専門教授学プロジェクト	3
		工作教授学IIと専門教授学プロジェクト	3
		織物教授学IIと専門教授学プロジェクト	3
第5中間学期	2013冬	教生（4週間）	6
		英語コーチング	1
		フランス語コーチング	1
		宗教と文化コーチング	1
6	2013春	ドイツ語教授学II	2
		課題学習領域：学校ネットワーク	4
		数学教授学II	2
		人間と環境教授学II	2
		法II	1.5
		深化課題II	6
	追加モジュール	1	
	プロフィール 科目	英語教授学II	2
フランス語教授学II	2		
第6中間学期	2013夏	実習試験（4週間）	3
間学期		陶冶と訓育の試験	1.5
		職業実践教育（BpA）試験（4週間）	1